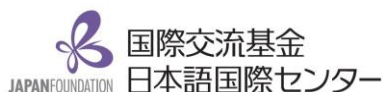


## 学習を評価する

## Unit 2 実践編 Part 1 言語知識を測るテスト



## はじめに

Unit2 実践編では、学習を評価する方法を考えます。テストでは、話す・書く・聞く・読むといった言語運用力や、文字・語彙・文法など言語知識を測ることが多いです。このパートでは言語知識のテスト問題の例を見ながら、注意する点を確認します。

## 1. 漢字のテスト問題例

漢字は、その形によって読み方と意味を表しますので、漢字の知識を測るということは、形が分かるか、読めるか、意味が分かるかを確認することです。例を見ながら、どんな問題でこれらの知識を測ることができるのか考えましょう。なお、ひらがなとカタカナを読んだり書いたりできる学習者の場合について考えます。

## ◆漢字の「読み」

みなさんは、学習者が漢字が読めるかどうか、どのようにテストしていますか。例1は、教師が漢字を見せて、学習者がそれを読む方法のテストです。漢字を直接音読させるので、本



当に読めるかどうか確認できます。現実の生活でも、漢字を見て、自分で音を確認するためや、人に頼まれて声に出して読み上げることがありますから、この方法は真正性が高いと言えます。一方で、学習者の人数が多いと、テストをするのに時間がかかってしまったり、テストをする場所や出題する人が多く必要になったりするなど、実用性に問題があると言えます。

例2は、問題用紙に書いてある漢字に読み方を書く方法です。学習者の人数が多くても、一度にできて実用性が高い方法で

例2 漢字の読み方を書きなさい。

私は大学生です。

す。しかし現実生活の中では、読み方が難しかったり間違えやすかったりする漢字にフリガナを付けることはありますが、<sup>ふつう</sup>普通は、漢字に読み方を書くことはありませんから、この問題は真正性が低いと言えます。

テストで問題形式の真正性を重視するなら例1を、実用性を重視するなら例2を選ぶことになります。

<sup>さいてん</sup>採点の仕方について考えましょう。例2の答えで、平仮名の形に問題があったら、どのように採点

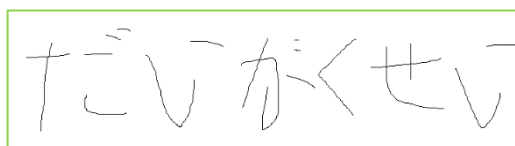


図2 解答例

したらいいでしょうか(図2)。測りたいのは「読み方が分かるかどうか」ですから、平仮名の書き方をこの問題で測ると妥当性の低い問題になってしまいます。書き方の指導は必要ですが、この問題では読めるかどうか以外の点で<sup>げんてん</sup>減点しない点に注意しましょう。

## ◆漢字の「書き」

漢字を書く力を測るテストでよくある形式は、音を示して、漢字を書かせる問題です(例3)。しかし、「かえる」という音の漢字には「帰る」「買える」「変える」など、いくつも

例4 今日 予定を かえます。  
( )

例3 かえる = ( )

あります。音と意味に合った漢字を書く力を測るためには、例4のように、文の中で使われている漢字を、意味を考えて書く問題にしなければなりません。

また、学習者が手で書いた漢字を採点する場合は、字のバランス、とめ、はね、はらいなど、基準を作成しておく必要があります。また、その基準は授業の中で学習者と共有しておくことも大切です。ただし私たちの日常生活では、パソコンを使って文字を打つが多くなっています。

テストもコンピュータで行う場合があるでしょう。正しい漢字を選ぶ力を測るなら、例5のように正しい物を選ぶテストにすることもできます。

例5 今日の予定を かえる。  
a 帰る b 替える c 変える d 換える

このように、漢字のテストでは、実用性と真正性のバランスを考えて問題を作る必要があります。また、形と読みと意味のどれを測る問題なのか、妥当性に注意しましょう。手書きを採点する場合は、評価基準を準備しましょう。

【タスク 1】 例題AとBは、解答方法が違います。二つの問題の長所と短所は何ですか。問題

題を作るときと採点するときについて、表に記入してください。

例題A 下線部分を漢字にきなさい。

マンガをかくことが好きです。

例題B 次の下線部分はどう書きますか。1～4から選んでください。

マンガをかくことが好きです。

1. 書く 2. 欠く 3. 描く 4. 苗く

	問題を作るときについての長所・短所	採点するときについての長所・短所
例 題 A		
例 題 B		

## 2. 語彙のテスト問題例

語彙の知識には、単語の音と文字・意味・使い方があります。ここでは、語彙の「音と意味」と「使い方」に分けて、知識を測るテストの問題を見てみましょう。

### ◆語彙の「音と意味」

例1は、母語で示されたことばの意味に合った日本語を書く問題です。(1)の問題の答えは、「着<sup>く</sup>」です。「つく」と言う言葉の意味を知っ

例1 次の語は日本語でなんといいますか。  
書きなさい。

(1) arrive (2) sleepy (3) young

ているかどうかをみるのが妥当性のあるテスト問題です。語彙の力を測っているか、という妥当性に注意して、教師は採点する必要があります。ところで、学習者が答えを漢字で書いて、その漢字が間違っていたらどうしますか。例1は「答えをひらがなで書きなさい」と指示すればよかったですね。

例2は、日本語の音を聞いて絵を選ぶ問題です。教師が「ケーキ」と言ったら、学習者はAを選びます。このように絵を使えば、単語の意味が分かっ

例2 日本語を聞いて、表すものを選びなさい。



るかどうかを確かめられ、漢字や文字の力を測るテストになる心配はありません。ただし、絵が単語の意味を分かりやすく示していることが大切です。学習者が誤<sup>ご</sup>解<sup>かい</sup>したり、迷<sup>まよ</sup>ったりする

おそれがない絵を使いましょう。

### ◆語彙の「使い方」

学習した語を場面や状況じょうきょうに合わせて適切に使えるかどうかを測るテストについて考えます。

例5 正しい答えに○をつけてください。

(1) 今日(けふ)は風(かぜ)がふいて、(さむい、つめたい、すずしい、ぬるい)ですね。



(2) 友達(ともだち)のお父さん(おとうさん)が、私の弟(あに)に本(ほん)を (a.あげました b.やりました

c.くれました d.もらいました)



例5(1)は、温度が低いことを表す語彙の使い分けができるかどうかを測る問題です。

「今日は風がふいて」という言葉とイラストを見て、適切なことばが選べれば、語の使い分けが理解できたと言えます。母語で状況の説明をつけるのも良いでしょう。(2)は、やりもらいを表す言葉の問題です。物の受け渡しをどんな人がするのかによって動詞が変わりますから、友達のお父さんと自分の弟という具体的な状況を設定すると、意味が分かって適切な語を選ぶ力を持っているかどうか、測ることができます。

例6は、授業で学習した「楽しい」と「うれしい」の使い方の理解を確認する問題です。

例6 \_\_\_\_\_ のことばの使い方が正しいものに○、正しくないものに×をつけて

ください。

- a. 先生にほめられて、楽しかったです。( )
- b. 昨日のパーティーは、楽しかったです。( )
- c. 犬が見つかって、とてもうれしかったです。( )
- d. プレゼントをもらって、とてもうれしかったです。( )

このような○・×で答える正誤問題は、本当にわかっていなくても 50%の確率で正答になってしまいます。学習者が本当に理解したかどうかを知るために、×にする理由を書かせると、どの程度正しく理解できているのかが分かり、信頼性を高めることができます。

このように、語彙の知識を確認する問題を作るときには、文字を書く力を測るのではないことに気をつけて、問題の形式や、答え方を選びましょう。

【タスク 2】「先生」と「教師」は、意味は同じですが、一般的には自分の職業を言う場合に「教師」を使います。このことを授業で教えた後、二つの語を使い分けられるかどうかを確認するために、選択式の問題を考えてください。

### 3. 文法のテスト問題例

初級レベルの問題の例を見ながらどのように文法の力を測ることができるかを考えます。

助詞・動詞の活用・文型を取り上げます。

#### ◆助詞

授業で助詞の意味や使い方を学んだあと、それを理解できたかどうかを確認する問題を見てみましょう。

例 1 は正しいものを選択肢から選んで書き入れる問題です。助詞のテストで

例 1 私は毎日 10 時 ( ) 寝ます。

①へ ②を ③に ④が

よく使われる形式です。選択肢には、学習者が授業でよく間違える助詞を入れてあります。選択式の問題では、答えが二つ以上ないかどうか確認しましょう。普段から学習者の誤用例を集めておくと、学習者の理解を確認するための選択肢を作りやすくなります。

例 2 は、学習者が自分で答えを考えて書く、<sup>きじゅつしき</sup>記述式の問題です。記述式問題を作る時は、教師が選択肢を用意しなくて良いのですが、どのように答える可能性があるのかを考えておく

ことが必要です。例 2 の問題では「10 時に」の他に、「10 時から」や「10 時ま

例 2 私は毎日 10 時 ( ) 寝ます。

で」と答える人がいるかもしれません。どれも日本語として間違いではありませんが、助詞

「に」の意味が分かっているかどうかを測りたければ、私は毎日 6 時 ( ) 起きますのように、

答えが「に」一つだけになるように問題文を作ることが必要です。



複数の助詞の知識を確認したい時は、問題を複数作る必要があり、それぞれに選択肢を考えなければなりません。例3のように、組み合わせ法にして、合う物を右側から選ぶという問題の形にすることができます。

## 例3

- |                        |   |      |
|------------------------|---|------|
| (1) 私は毎朝 6 時 ( ) 起きます。 | ・ | A: に |
| (2) 自転車 ( ) 行きます。      | ・ | B: を |
| (3) 公園 ( ) 散歩します。      | ・ | C: で |

ただし、右と左が同じ数だと、正しい答えが分からない問題があっても、偶然<sup>ぐうぜん</sup>正解してしまったり、一つ間違えたせいで他の問題まで間違えてしまったりすることがあり、信頼性が低くなってしまう。右側の選択肢に「D: の」を追加すればそれを避<sup>さ</sup>けることができます。学習者の知識を確認するには、偶然正解したり、一つわからないことがあるせいで全部が不正解になったりしないように、問題を作るときに工夫が必要です。

例4は、これまでの例と違って、まとまりのある文章の中で助詞を考える問題です。

例4 ( )に「は」以外の助詞を入れてください。

きのう( )夜、私の部屋( )パーティー( )ありました。パーティー( )は、友達( )15人、先生も3人来ました。全部( )19人集まりました。とても楽しかったです。パーティーは、夜1時( )終わりました。次( )日、先生( )私たち( )とても眠かったです。

短い一文ではなく、まとまりのある文章の中で、前と後ろの文の意味も考えながら答えなければなりません。私たちの普段の生活では、まとまりのある文章や話の中で前後の意味を考えながら、適切に助詞を使ったり、理解したりしていますから、このようなテスト問題によって、学習者が現実場面での使い方を理解しているかどうかを確認することができます。

#### ◆動詞の活用

例5は、活用の知識を確認する問題です。③に対して「きて」「きて」「着て」「来て」と答えた学習者がいたら、どのように採点するでしょうか。「きて」「きて」「着て」は×で、「来て」は○でしょうか。

例5 「て形」を書きなさい。

①書く→      ②読む→      ③来る→

この問題は「くる」という動詞の活用形が「きて」であることを知っているかどうかを測るものですが、「着て」「来て」という解答が「きて」という音を表わしているかどうかわかりません。「正しい活用の知識があるかどうか」を測る、妥当性のある問題にするには、動詞を表わす漢

字にはふりがなを付け、答えはひらがなで書かせなければなりません。

テストの信頼性を高めるためにはさまざまな答えを想定し、どのように採点するのかという採点基準を作ることが必要です。

例6は表に適切な形<sup>てきせつ</sup>を書き込む問題です。

例 6

辞書形	～ない	～ます	～て
おきる	おきない		
はな 話す			
❶		きます	
き 聞く			

この問題も、解答は全部ひらがなで書くように指示する必要があります。また、辞書形の空欄❶には、ます形の「きます」を見ると、二通りの辞書形(着る・来る)が考えられ、答えが二種類<sup>しゅるい</sup>出来てしまいますので、辞書形を見て活用形を答える問題にしなければなりません。

例5や例6のような客観的な形式は、「活用」のように測りたいことが測れ、採点も楽なためよく使われますが、問題の妥当性に注意し、解答が複数でてこないように注意して作成しましょう。

## ◆文型

例7は動詞の形を受け身に変えて、形を正しく作れるかどうかを確認する問題ですが、意

味と使い方を理解し  
ていなくても答えられ  
ます。受け身の形だ  
けではなく、その文型

例7 文の形を変えなさい。

「友達が私の絵をほめました。」 →

私は\_\_\_\_\_。(ほめる)

の意味と使い方を理解しているかどうかを測りたい場合、どうすれば良いでしょうか。

例8は「友達と私」のやりとりを見て、それを説明する文として必要になる受け身文を書く問題で、場面・状況に合わせた受け身文の使い方の知識を確認する問題になっています。実際に適切に使えるかどうかを確認するには、このように、問題文に場面を具体的に示すことが必要です。

例8 友達とケイさんのやりとりを読んで、ケイさんになったつもりでブログを完成しなさい。

ユキさんは、ケイさんが描いた絵を見ている  
ます。

ユキ：ケイさんの絵、素晴らしいですね。  
ケイ：本当ですか。ありがとうございます。

<ケイさんのブログ>

今日、私は\_\_\_\_\_。  
とてもうれしかったです。

【タスク3】 例題1と例題2は、敬語の知識を測る問題です。どんな点が違いますか。

例題1 次の文の( )の中の動詞を敬語に変えなさい。

(1) 社長は今、でかけて(「います」の尊敬語→ )。

(2) 社長は今、でかけて(「います」の謙譲語→ )。

例題2 次は、会社の受付での会話です。( )の中の動詞を敬語に変えなさい。

客: すみません、社長さんは(いる→ )か。

社員: 申し訳ございません。社長はいまでかけて(いる→ )。

## まとめ

言語知識を測るテストでは、どんな知識を測りたいのか、妥当性に注意して問題を作らなければなりません。そして実用性と真正性のバランスを考えましょう。手書きの漢字の採点には評価基準を作ったり、選択問題では選択肢の数に注意したりするなど、信頼性を高める工夫も大切です。使い方の理解を確認するためには、問題文に具体的な場面を提示したり、まとまりのある文章の中で言葉の使い方を考えさせたりするようにしましょう。

## ■ このパートの参考文献と参考サイト

- 国際交流基金(2011)『学習を評価する』(国際交流基金日本語教授法シリーズ  
12)ひつじ書房
- 関正昭・平高史成編(2013)『テストを作る』スリーエーネットワーク
- 「JF 日本語教育スタンダード」<https://www.jfstandard.jp>

## ■ タスクの答え

### 【タスク1】 解答例

	問題作成	採点
例 題 1	問題を作る時間が短い。	書いた字の採点には時間がかかる。字形として大切な点を教師間で話し合っておく必要がある。それをテスト前に学習者にも伝えておく必要がある。
例 題 2	選択肢を考えるため時間がかかる。普段から学習者が書いた間違いの例を集めておくと良い。	採点は早くできる。

【タスク2】 次のような問題で、「先生」か「教師」のうち、適切な方を選ぶことができれば、教えたことの理解を確認することができます。

例： ( ) の中に入る語を、□から選んでください。答えは一回しか使えません。

(1) わたしはリーです。わたしは日本語の ( ) です。

(2) カタリーナさんは、ビール会社の ( ) です。

(3) マヤさんはコンピュータ会社の ( ) です。

(4) A：あの方は、どなたですか。

B：チョウさんです。わたしの韓国語の ( ) です。

a ぎんこういん 銀行員   b きょうし 教師   c エンジニア   d 先生   e しゃいん 社員

### 【タスク3】

例題1では、「いらっしゃる」「おる」という敬語と活用形を知っていれば、正しく解答できますが、使い方の知識を測ることはできません。例題2は問題に場面や状況が示されているので、それに合わせて正しい形で敬語を使う知識があるかどうか測ることができます。